

寺報

令和2年(2020)霜月 第140号(1)

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺

TEL 024(548)1240

FAX 同上

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



大本山永平寺山門にて送行の拝を行う秀憲
永平寺における修行に心からなる感謝を込め、三拝
(写真、道友が撮影とのこと)



送行の拝の後、同日送行の先輩とともに
見送りの先輩・同輩・後輩たちと記念撮影

(同上)

弟子秀憲(令和二年十二月四日送行の拝)
大本山永平寺 送行
送行(道場を辞し)のお拝の後、福島まで行脚

檀信徒はじめ多くの皆様方の
励ましのお言葉、見守りの眼差し、
今後を託す期待等のお力により
二年九ヶ月の本山修行を了じ帰山致します



永平寺上山の日
平成30年3月17日
(安洞院住職 横山俊頭師撮影)

心より感謝申し上げます

令和二年十一月四日午前十時に、弟子秀憲は、平成三十年三月十七日に上山させて頂いた山門にて送行（修行道場を辞すること）の拝をつとめ、大本山永平寺における安居修行を了じさせて頂きました。

て帰る訳にはいがねえんだヨなあ」等の言葉を頂きました。修行である以上、厳しいのは当たり前です。どのような道であらうとどのような職業であらうと楽なことなどこの世には存在しません。それぞれ厳しい毎日を生きているのですから当然のことです。それでも人生は人の縁、出会いの縁の結び方が大事であり、特に僧侶は真正面から道を極めるために心を発して励まなければなりません。また、人に親切でやさしいことも条件の一つです。真面目に永平寺で励むこと、身を惜しまずにつとめること、人々に親切にや

ご存知の通り、現在も発熱外来は普通の状態ではありませんのでその場合、どこも受け入れてくれませんので強制終了させるつもりです。一部都会の部分は電車で移動させました。（多くの方々に迷惑をかけてしまいますのでそのようにいたします。）

行脚あんぎゃという修行

古人は悉く道場をたずね善知識（すぐれた師匠）に出会うため諸国行脚を行いました。そして全国を歩いたのです。勿論現在は交通機関に頼ることがあたりまえのことです。ただせっかくです。若い時に自分の足で歩いてみることも大事です。古くさいとも言えるやり方なので

振り返れば平成三十年三月十五日わらじのひもを結び、網代笠をかぶって出発していききました。上山の緊張が手に取るようにわかりましたが、縁ある皆様に見送られ、福島駅で常円寺木童兄も合流、安洞院住職横山俊顕師が同道して下さり山門頭まで見送って下さいました。平成三十年十二月十二日～十三日にかけては、励ましのために永平寺へ長秀院・仲興寺の檀信徒の皆様が参拝団をつくり「秀憲師を励ます参拝」と称し、同行頂きました。初雪の後の永平寺でしたが、秀憲の緊張した顔に、檀中の皆様のお顔が目に入った瞬間、何とも嬉しそうに笑った顔が心に残りました。「本山にあがって頑張ると、良い顔になりますねえ」と言って頂き、帰りの時は、「も・ご・せ・な・あ、このまま連れ

さしくできること等を体で覚えさせてもらったと思います。

それでも、くじけそうになったり、嫌になったりした時に、励ましを頂き、背中を押して頂けると人はやっていけるのだと思います。

本当に多くの方々の励ましを頂いたと改めて師匠として心から感謝申し上げます。

十一月十日現在、富山県に入り行脚の旅を続けています。多くの人と出会い、古人の歩いた道に思いを馳せることだろうと思います。

新型コロナウイルス肺炎の状況が第三波といわれるようになり予断を許さない状況です。本人が熱を出してしまった場合等は、強制終了させるしかありません。

すが、自分で歩くことによりはじめて見えてくるものもあります。人の後をなぞり、真似することなのですが、これが第一歩で一生の糧になることと思います。

昔の人は一日五十キロメートルも歩いたようですが、現代人には三十キロから三十五キロ程度でしょうか。それでも、大本山永平寺で体を使った修行をして、年齢も二十五歳、最も体力・気力が充実しているときです。

コロナ禍ですので、種々不都合なことがあり、四十年前のように突然お寺へ泊めて頂く等は全く不能（コロナウイルスを持ち込むことになるのかもしれないので）ですので、旅館・ホテルに宿泊は限られます。何とか無事やり切ってもらいたいと考えています。（祥文 拝記）

大本山永平寺の山門にて送行の拝そを行あじ、
現在福島へ向けて行脚中です。

山門を出立してから福井、石川、富山を経て
新潟です。到着は十一月二十二～二十四日
あたりであると思います。



永平寺を後にする (撮影 道友)

福島到着は未だ予定が立っていませんが、十一月の二十二〜二十四日頃と思います。但し、発熱や体調不良が続くようだと、帰山できなくなってしまうますので強制終了させます。(お寺が地域に迷惑をかけることになるためです。)

十一月十日現在、新型コロナウイルス肺炎に罹患される方が各地でふたたび増加しています。第三波と呼ぶ専門家もいますので、皆で充分に気を配り対処してまいりましょう。

ふたたび、新型コロナウイルス肺炎が増えています。第三波と呼ぶ専門家の指摘もあります。十一月に入り寒くなり、インフルエンザ、また風邪等が重なり始めると、やはり大変であろうと想像いた

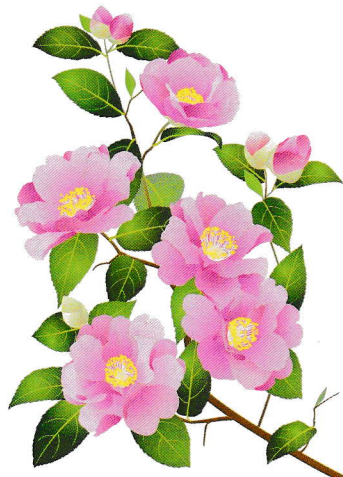
します。社会を動かすために、皆も揃って移動する状況ですので、とにかく気をつけていきたいと存じます。よく考えよく協力して進んでまいりましょう。

案内板

種々の行持・行事が再開されたもの、未だ中止のものも多い状況です。今後も状況によりかわっていきますので、長期戦なのだということを自覚して、寺院行事を決定してまいります。

令和二年 霜月

山主 拝



おねがい

年末年始は、住職が不在がちになります。種々の相談等でお急ぎの場合は電話またはFAXにてご確認下さい。

電話 〇二四一五四八一二四〇
FAX 右 同